

読者の皆様へ

今後の編集体制について

『表現者クワイテリオン』顧問 富岡幸一郎

日頃より『表現者クワイテリオン』へ多大のご支援をいただきありがとうございます。

世界情勢がまさに混沌をきわめ、日本の立ち位置が問われている今日、真正保守の旗を掲げて「危機」と対峙する言論を展開してきた本誌の役割は増々大事なものとなっていると考えます。この国の復活か没落かの瀬戸際にある時、本誌の言論戦の停滞はあり得ません。

そんな中、本誌立ち上げから編集長を務めて参りました藤井聡氏の下記書面の通り、現在、氏が一連の事実関係の確認・整理を進めていることから、当面の間、氏を除く柴山桂太、浜崎洋介、川端祐一郎の三氏による編集委員会を中心とした新たな編集体制のもと、更なる誌面の充実を図ってまいります。

皆様には一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

読者の皆様への陳謝と報告

『表現者クワイテリオン』前編集長 藤井聡

この度は、当方が関わっております「Japan is Backプロジェクト」に関連して発行された「サナエトークン」が大きな混乱を招いたことにつきまして、高市総理はじめ関係各位にご迷惑をおかけし、また何より、本誌『表現者クワイテリオン』の読者各位におかれましては大変なご心配をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

「サナエトークン」に関連する私の発言や関与の経緯につきましては、報道等でも取り上げられております通り、当方は国民の意見を集約し政策形成に活かすという「Japan is Back」構想の一環として、意見投稿に応じて付与されるアプリを活性化するトークンであるとの説明を受け、その趣旨に沿うものとして協力しておりました。しかし、発行後に明らかになった、アプリとは独立に外部市場へ大量発行したという実際の流通のあり方に ついては、当初私が理解していた内容とは異なり、その事実を認識いたしました折には、違和感を覚えるとともに遺憾の念を抱いた次第であります。結果として、高市総理はじめ関係各位、そして読者の皆様に混乱とご心配をおかけしたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

現在は、本件に関する事実関係の精査を進めているところであり、状況把握が進み次第、必要に応じて適切にご説明申し上げます。

また、当方が編集長を務めてまいりました『表現者クワイテリオン』につきましては、当方が本件精査を進めている間、本号より当方を除く編集委員会による集団編集体制にてこれまでと何ら変わることなく、力強く継続していくことを改めて確認申し上げているところでございます。

当方自身も一執筆者として引き続き本誌の言論活動に貢献してまいります。

改めて、高市総理はじめ関係各位、そして何より本誌の読者各位にご心配をおかけいたしましたこと、心からお詫び申し上げます。

今後とも何卒、よろしくお願い申し上げます。